

**No.9** 

H28.9.30 発行

みくまの支援学校 育友会 防災研修部

先日行われた防災研修部会の 中で、夏休み前に育友会の 会員の皆さんにお願いした 「防災アンケート」の結果 について検討しました。



「家庭における防災」について、ある出席者は、 家庭で子どもが一人でいる時に災害にあった 時、子どものプロフィールを書いたカード(首 から吊り下げられるもの)を玄関に置いている ことを紹介してくれました。ケースの中に家族

の写真も入れていることも教

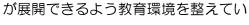




えてくれました。子どもが自分でそれを持って避難するとのことです。こんなアイデアがいくつかだされました。後日アンケート結果とともに会員の皆さんにお伝えする予定です。



1学期から校内でスズメバチを見かけることがありました。バスの介助職員さんの協力で、蜂を捕らえるトラップを校内に数箇所仕掛けました。先日、捕獲した蜂の数を数えると、合計563匹ありました。子どもたちが安全・安心して学習活動







ます。ちなみに、このトラップは、2リットルのペットボトルに小さな穴を開け、薬剤としてお酒・砂糖・酢を混ぜたものを入れています。 (写真は、校門付近の桜の木に仕掛けたトラップ。)

# の子できのコミュニケーションをどのだったこうして

1 自分の名前を言えますか

	小	中	高	全	
言える	14	15	17	46	75%
言えない	7	2	6	15	25%

# 2 住所を言えますか

	小	中	高	全	
言える	2	6	12	20	31%
言えない	21	12	11	44	69%

6 自宅から安全に避難できる場所とそこに行く経路を知っていますか

	小	中	高	1	È
知っている	17	13	20	50	79%
知らない	5	5	3	13	21%

- ・お風呂の水は、抜かずにおいておく。断水のときのトイレ用に 使うため。
- ・飲み水とは別に20ℓのポリタンクに水を入れて定期的に入れ 替えている。・各自の防災リュックの用意。
- ・非常持出袋の見直し。
- ・避難経路を実際に走ってみる。
- ・家具の固定を計画中。



85%の回収率でした。御協力ありがとうございました。後日、全集計結果と防災研修部会での分析等をお知らせします。

2 地域などの防災訓練に参加したことはありますか

	小	中	高	全	
ある (子どもも)	2	3	7	12	20%
ある(子ども不参加)	2	1	1	4	7%
ない	19	11	14	44	73%

3 非常持出品を準備していますか

	小	中	高	全	
している	12	5	11	28	47%
していない	10	10	12	32	53%

6 子どものサポートブックを作っていますか

	小	中	高	全	
作っている	3	1	4	8	14%
作っていない	19	13	19	51	86%

# OSECAZE O CO SIECE

- ・いつ、どこで起こるかわからないので、子どもたちにはもし親がいない所であれば、落ち着いて身の安全を守り、そばにいる 大人の方の指示を聞くなどするように伝えています。
- ・1週間分くらいの水・食料を確保すること。カセットコンロを 準備したい。
- ・子どもは、車椅子(又は座位保持椅子)にのっているので、子 どものそばを離れるときは、倒れてきそうな家具のそばには居 させない。



榎本校長先生による特別 寄稿です。



1957年2月10日、日ノ御崎沖でデンマーク船が日本船の乗員3人の救助に当っていた。猛烈な北西風の吹き荒れる波の高い夜のことであった。救助は難航、甲板が炎に包まれ1人また1人と暗い海に沈んでいった。唯一残った船長も、甲板へ引き上げられる寸前に力尽き暗い海に転落してしまう。クヌッセン機関長は意を決し、船長を追って暗い海に命綱と共に飛び込む・・・。4人とも帰らぬ人となってしまった。翌年、日ノ御崎灯台近くに彼の遺徳を偲ぶ顕彰碑が建てられ、今も献花が絶えないという。

2002年5月。W杯出場のため、デンマークチームが関西国際空港に降り立った。移動バスへ乗り込も うとしたとき、「頑張れ!!デンマーク」の横断幕を広げて応援している人達が目に入った。彼らは日高・美 浜商工会青年部の若者達であった。サッカーを通してデンマークチームと和歌山の温かい交流が始まる瞬 間であった。その後、デンマークと日本の両国が更なる友好を深めることにも繋がっていった。

クヌッセンの丘を訪れ胸像にそっと手を合わせ、当時を偲んだ。桜咲き海凪ぐ穏かな青天の日であった。